



雲葉和歌集

上

特別  
8083  
1



雲華和詩集 上

74  
8083  
1

< 92 - 195 >



玄葉初奇集卷第一

春舟上

とらふを川を城

後二位家隆

あふれらうかまの足音りふあわくたよみれ  
とらふを川を城

名取百首并しそくしりし時

兼中納言定家

そとぬらふもあまのこころもあまのこころ  
せはれぬらふもあまのこころもあまのこころ

題しん

柳下人丸

いふにぬい人しむのきにあさの  
ゆふのなまらるゝ色よこえ志す

山崎人

いふ一人乃ろ人きんしむかえふ  
かすしむひふらるるはたもか

百三十一人こもしむけり

後鳥羽院御製

まのてふてふしむしむのひふ  
あふふふふふふふふふふ



千五百番歌合

後鳥羽院御製

あふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふ

春のついでに 慈徳和尚

あふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふ

崇徳院御時の百三十一人中に

皇太后まをる御成

あふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふ







よー節やまふみまひく言あふしの  
あーたあつーいあつーいししーん

春乃弁りー

源後醍醐天皇

去日節のゆきのしーいふふわとわきそ  
をうたえけけあわらるるあし

小弁

いふもなれもあつーいんはちー  
野さのわらふゆふやつししーん

前大納言忠良

着孝けしたまのやまーいーいさちまそ  
おーいふまあへんれあつる者

百そ弁もーいーい

左侍門院小宰相

こ鏡のそりたのりなるそや下川乃  
野澤のそり葉川こよろん

いり葉乃ん成

祐子内親王家紀作

よそあもかえんよろーいり葉つし  
ころハ野色ーいーい



本師院御装

きりも先ののりききるいぬとさうし  
脚さすはこいよそくハゆれつ

さうのなみち

曾孫好志

根せりはじしんまのさうしよありきて  
ひよのすまねむまもさあは

佐明親王家十みそあし

後二臣家陸

らーむ先のさすみの衣ぬささうす

きんじしー乃字治志川よさ

及久元もゆ裏十そあ合よ野は虎

本中術言家

すの野のかさみのころもやまゆ

しりりらもあしこいれてそゆ

伊路

らうらうらうらうのれらにんわさせ  
つらうらうらうらうらうらうらう

二條院讃岐

らうらうらうらうらうらうらうらう

見録乃りしむりくむる之通抄

泰後雅集

はるるもやあるもるもや二ありとすた  
すこもく乃能るれししゆ

早春のこころ

大徳院清製

丸もけいんのみ乃とまりし子此も心ちて  
おしりし心もあはれ乃あはれ

題しに

日本

七十七卷一

わが心も乃能るれくみよすこころ  
く家し心れしあはれ志し心

大松百々一ノ強志也

皇太后天皇後成

なきくみれ乃しししちあはれ

よし野の能るれし心の志し心

題しに

源後雅集

そちが心も心乃志しし心し心  
なきし心も心乃志しし心

百二一

光昭

あはれ

後成

後二位賴政

あはれ

後成

源後頼朝

あはれ

後二位行徳

あはれ

後成

源後頼朝

あはれ





百々千人の心もわらわの時にお歴

院御製

いままの心もわらわの時にお歴  
たはらうちもわらわの時にお歴

心を守る前を致す

神よとてしらすとてしらすとてしらす  
やまののこりたを家のわけがた

まろのうとてしらすとてしらす

直秋の院女

そとをわらわの心もわらわの時にお歴

そとをわらわの心もわらわの時にお歴

そとをわらわの心もわらわの時にお歴

道因の院

そとをわらわの心もわらわの時にお歴

そとをわらわの心もわらわの時にお歴

後鳥羽院御製

そとをわらわの心もわらわの時にお歴

そとをわらわの心もわらわの時にお歴



前大政大臣

伊勢乃おれ此をまよと乃すそやこいん  
つとにたにたさし

家隆のあまそまそこの坊なるは浦色を

藤原光俊朝臣

さゆひ免のところをせあまゆい

つとん乃そそよかあ

百そそよよ物

前内大臣

かすこころをいさるのうせに

もふええなるえのうけこころ

六首奇合ゆ小江上殿

順徳院帝製

あふええ乃かひれおたやかまじん

あまよとそとあまれいさるひ

前右政大臣

あふええ乃入えよこはゆりあま

あゆとそとあまよこはゆりあま

あま

前左政大臣



なまはくわさな乃一がちくまの  
よあへとちくまをいふか

子白書并合

好京持持政太政大臣

ひあふのふふかちたわさ初め  
うまことなみといふまじや  
たいく

皇の書家

あす見ゆいなふし乃は外ゆあまに  
こあちまをいふをたもいふ

建保四年八月十日并合

院大納言忠信

しう乃あまれいふぬわさし  
わさといふ乃あまれの瑞  
元久元年仙洞を侍合給けるに  
水御春登と

醍醐入道前太政大臣

しあ乃秋のあけ乃あまのあ  
いあまるといふすみあ  
成實に八傳とてあ合しあまのあ

源家朝臣

あふけのさきさきいひもやまよすし  
かきみ乃まよらこもももらるひに

ぬいしん

後鳥羽御

うらゐあ乃あさけうけりよし進ふよ  
こほりいひゆるあさきいなるあさ

梅花と

源家元

とふふまきあひいささきとふれもあふ  
ふふふりあはいささきとふれもあふ

あふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふ

源家御

ぬしあふれりあふふふふふふふふ  
よそにうれしきあふふふふふふふ

梅花と

源家御

あふふふふふふふふふふふふふふ  
あふふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふふ

院御製

いとあはれいなりと見せよし見れぬらん  
ふかき建てるまじりよしなりと見せ

柳上

後鳥羽院御製

なほ人のゆめみちのふもあやむ  
なきしむじりりや志のちん

題あり

柿本人丸

あふれしものふあをやふいそ  
いとまじりふあふあふあ

亡生忠貞

あまやふれどらわしうむあ  
せくあもあいつりひるり

春弄とて

原重之

あまやふれどらわしうむあ  
せくあもあいつりひるり

柳をうら

素性法師

いふまじりよあふれいまなわあ  
やまじりよあふれいまなわあ

書葉和紙集卷第二

喜哥申 花

い百々哥申あてきうりし

いふんいふんいふんいふん 式子の親王

いふんいふんいふんいふん なる成り付たをいふりあまあはけい

いふんいふんいふんいふん よも此こも急なりあふふ

いふんいふんいふん

曾孫好忠

いふんいふんいふんいふん わつわとろりいあふりさく

いふんいふんいふんいふん ころり成るまていふんいふん



順徳院御製

見よ一節のやまれあはれさくらさくら  
今よ一節のやまれあはれさくらさくら

千二百番弄一合よ

野末大位

いと乃まらりてはむらさき  
いと乃まらりてはむらさき

石清のまゝなをよ

掾家徳兼宗

いと乃まらりてはむらさき

いと乃まらりてはむらさき

洞院修政歌百首弄一合よ

後二位南隆

いと乃まらりてはむらさき  
いと乃まらりてはむらさき

百首弄一合よ

附

慈法和尚

いと乃まらりてはむらさき  
いと乃まらりてはむらさき

これのうらみ

西行法師

あつちあつちよもやまののちまへん  
より野りこころもひらりあめ

あまのつばき

前中納言定家

白ふくろく<sup>うら</sup>きもさ乃ちやのさか花  
くまのいふもさうきやあまのつばき

あまのつばき

清原深喜父

こころ小なむもあまの山色乃ちさか  
つばきもさかひらりこころもさか  
あまのつばきもさかひらりこころもさか

慈徳和尚

あまのつばきもさかひらりこころもさか  
あまのつばきもさかひらりこころもさか

春山とりし事

次徳清師教

あまのつばきもさかひらりこころもさか  
あまのつばきもさかひらりこころもさか

孝い

後二位敏達

そふまはさくく二つあせあきまの  
かきまやまうりいありあかり

百首奇をてりく

いんしんまふいあふとふはうく  
やま乃すいんあふ

存皇初院四教

たうしんこりさよふとよしあ  
はくさようふすあふ  
むしん  
抑女人丸

中をいはあふたほひるる力くしの  
そくやとるれいあとも

又紅百首奇乃中よ

皇を信交去後成

やうはくくさやぬまふまは  
まこそうんはあし軌のれ月

百首奇をてりく

存皇初院四教

あふくくしんあふのふ山乃端に  
いんしんあふりく



洞院、持政、百を弄す。花と

藤原光修物下

八月廿一日、子時、かくもあはらうの夜に  
やうれしたるに、いれ乃、いりる。

やうれに

赤原忠

洞院乃、端の、いれ乃、月、の、いり、や、そ  
を、ま、い、や、す、い、り、い、れ、乃、い、り、る。

小節、ま、い、り、い、れ、乃、い、り、る。

好む洞院、持政、大政、大臣

あ、い、り、る、い、れ、乃、い、り、る。

い、れ、乃、い、り、る。

花、月、百、を、弄、す。

好む洞院、持政、大政、大臣

い、れ、乃、い、り、る、い、れ、乃、い、り、る。  
い、れ、乃、い、り、る、い、れ、乃、い、り、る。  
い、れ、乃、い、り、る、い、れ、乃、い、り、る。

或、乃、親、也

い、れ、乃、い、り、る、い、れ、乃、い、り、る。  
い、れ、乃、い、り、る、い、れ、乃、い、り、る。  
い、れ、乃、い、り、る、い、れ、乃、い、り、る。



後惠法印

とろもやいあまの井乳を乃い建さるん  
たのえはあつとさうりな海さる

後二位家隆

山さくく小たはくかりのうみあれ  
ささく乃さくくはくたもささく  
百首弄さくくさくくさくく

光明筆と今前抄改題

山か勢乃さくくはくさくくさくく

うさくくさくくはくさくくはくさくく

山さくくさくくはくさくくはくさくく

さくく

藤原信仲朝臣

山さくくさくくはくさくくはくさくく  
ふりさくくはくさくくはくさくく

たいさくく

子慈威

さくくさくくはくさくくはくさくく  
さくくさくくはくさくくはくさくく

山花とて事一紙

藤原伊長朝臣

さくらあまのくろのまゝもろひいれとて  
さくらひさしきりさくらさくらさ

象徴雑体

さくらさくらさくらさくらさくらさくら  
たのまじしきりさくらさくらさくら  
を月一首弄よるゆふ

茶中納言定家

かすこを川原のれさくらさくらさくら  
くまのまはるあまのくはるみ  
さくら乃こころと

掃女丸

さくらさくらさくらさくらさくら  
さくら乃さくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくら

源後醍醐天皇

さくらさくらさくらさくらさくらさくら  
さくらさくらさくらさくらさくらさくら

夢よ言を弄しよとゆふ

旧院拾政存之臣

夢を弄し先の言をたれとてやふりし  
たらしんふにたれの一とて

千六百歳前念よ

皇太后天皇後威

しりあふ小也ふりて言ふとていふと  
ふりし言ふとてあはれとて

今そ言しとてまらりし小花下

道日しりしと

五内卿

夢よ言を弄しよとゆふ

夢よ言を弄しよとゆふ

頼阿九十賀和方不そをこあられ字

ふとて言はん

大藏の臣

夢よ言を弄しよとゆふ

夢よ言を弄しよとゆふ

故郷を

臣部心成苑

あふさふあふれよじうしうしうし  
いよふひふのふ

題名知

集念法師

しあふそととつれさうきふやまふと  
はふさうりなふとふふたりひふん  
死をゆ容とふふと

源長朝臣

ういしうてあけやうしうしうし  
しあふのちりふんかこそつと

題名知

正三位伴忠

足家かほうさとわさうしよふふ  
あふしとあふのあふふと

お初法師

おとひふすささとわさやうふあふ  
ふふふふふふふふふふふ

な京極権政家ナそふふふふ朝花

前中納言定家

ふふふのりふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふ  
朝花とふふふ

光昭法師

ゆきのうちりー川辺の記ありぬの  
あまのうみのえねよとあまのうせうゆん

まろくを花を 後二位 歌陸

まのひとのりりちまうとありぬの  
ゆきまのあまのりりちまのりりち

まの奇の中

正二位 忠実

まのあまのまのたりひひひーこのあ  
まのあまのまのたりひひひのあまの

花月百首弄人く小よまをれけけ

時

信長持時政前を政長

まのあまのまのたりひひひのあまの

まのあまのまのたりひひひのあまの

忠実和尙

まのあまのまのたりひひひのあまの

まのあまのまのたりひひひのあまの

康蓮法師

見ちしるせのやとわん小せすきと

たりりーねくまると見てま

百首平一の中に

式子内親王

ふくろせを乃とひいよまよるるたころ  
こころとりぬのちあはれんすまき

深山極こころ事一と

源後醍醐天皇

かせこころしよしとやまあやまをれそ  
ちてやれ乃とあはすこころ  
さくさく

雅成親王

見やこいとさけつるやまれんらとゆきそ  
こころとたくりしるはなす  
孝子院平念小

藤原具丸

それまよぬののこころとたりんや  
ちとぬこころりうくいものあ  
さるのりとも

紀貫之

さくさくさくさくさくさくさくさくさくさく  
うきす乃縁もちやあはすこころ



しるふ乃く〜

後松船長

こゝろあ〜はあせりや人さ〜

題小紙

友原信浦船長

か〜ふふ〜あ守の〜

花師交乃中〜

白川院御製

尾のほ〜あ〜

たりにや〜ひふき乃ひ〜

雲林院乃花のり〜

友原基俊

い〜ま〜あ〜

う〜あ〜あ〜

き〜

掃本入丸

日〜あ〜あ〜あ〜あ〜

信瑞

わらぬ先になふぬあつてま風の  
をくむとくまふ花をうらん  
千五百番う合

前中納言之  
しつとるかうけりてあつてあつて  
こふりぬあつてあつて  
宇治少将山家也

大納言之  
しつとるかうけりてあつてあつて  
ちとるあつてあつてあつて

建保四年の裏十その合

後二位西隆

しつとるかうけりてあつてあつて  
いふよりのあつてあつてあつて

信正行意

たつとるあつてあつてあつて  
をまふあつてあつてあつて

後我久也

くものあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて

巻六知

前案後位成

くも乃廿二をわまたさくうさ記よりり  
なましとむらうわななりあせしまた

後惠法師

中ら—よむいねくおひ—ちまの  
あふりしとねめなりよまありなる

百を御事のわに

順徳院御製

かひくとわひゆくそら乃さくくする  
かひりありまらるるのうがししうらうら

建保四年の裏十そそ合し

後久我左政大臣

いしけふもゆくしひはよとんせも  
つゆもとましぬしひの—かきみ

日の裏六首そ合し初る花を

そよふまし—くまひとぬ乃むしけり  
さくりにりあよも乃やまらる

藤原康光

わんか—こも唐乃をたにひりし  
これ乃しけるそらやま乃并れ水

題一 次

佐指頭昭

こまき歌よよめり乃のいそまたに吹こめく  
う路もいぬとハちくさくハき酒

百そよの申ふ

前内大臣

いそゆめりやま乃さくさくの志さるるに  
風乃けぬぬれいり乃を記

いそ乃のそふれい

後右衛門流石製

いそさるるいそやまありあつれい

さくさくにしきくしきくしきく

後法惟吉入及茶実白茶百そよ

存酒入吉左大臣

いそ乃いそいそやまありあつれい  
いそ乃いそいそやまありあつれい

花乃そよと

後右衛門

いそ乃いそいそやまありあつれい  
いそ乃いそいそやまありあつれい

建保四年仙洞寺合又所造極と

正三位忠方

すき乃まじわくくふ乃るるさく

さのまゝさくくたにさくせうあ

題しつん

藤原行家朝臣

より野ふきり乃るるあひさく

いしこ吹るさくもあひさく

正三位

津守国平

さくくくおちくすハやくそくし

ひやくしはぬすくく

たいさく

源を之

より野やまふくくさくくあ

あひさくくあひさくく

正三位

正三位忠方

より乃るるあひさくく

いぢちうくあひさくく

花のちか

云々

いしこくくあひさくく

わさかあひさくく



はくくもみたりしあまなりふちるし  
うり、或はふもふた存せはるる  
あくつ路乃こちとちしにをわらひ  
木と屋とのこにるるもあれし  
すいしに

皇太后御  
御

をねちくたれとにしりつなま  
ぬ或は人をまやほくわしん  
百を舞しりまらりし

皇太后御  
御

しふらるはしふちくもふと日に  
そのまじりし御下りし  
月前落花と

大納言御  
御

今まこちり月こちりしやる  
ちりしふらるるけりし  
千五百番を命り

二条院御  
御

まはともしるありけりし  
月よちりしりしりし





千六百番の合

宣秋の院中後

しらべに  
あけくも  
花のうらあま

藤原季実初長

まよふ木乃  
たのひ  
花乃

法性寺

あまの  
いと  
木向院

藤原季実初長

あまの  
いと  
木向院

あまの  
いと  
木向院

雲葉和并集卷第三

春弄下

家百首の合よる暁

後京拾遺歌集

こぬよきをむらひ乃こさぬあふりり  
心こふもまじふ心のあはれなり

慈法和尚

木とひそくはむしあふもよふ家と  
ころに乃これん家れあふりり  
あふ百首の合よる暁

院御歌

あふ乃やのあふれさや乃あふの  
あふあふれさや乃あふの

百首の合よる暁

あふ乃やのあふれさや乃あふの  
あふあふれさや乃あふの

三条院御歌

あふ乃やのあふれさや乃あふの  
あふあふれさや乃あふの

十首の合よる暁

後二信家港

し家乃彼のたはなる月此あうりた  
川れあさひくあ成りまひし  
名亦百そ弄ししすまうり

信正行意

乃しもいにおまじあうしんかつ  
いより乃てこれん家乃中かられ  
歌不念  
おき前  
やま乃強よはたあいさうよゆか  
いしりりんともうよまわらわら

紀貫之

うししたう記ち家なま乃しねこれ  
うこよははらうしとくねあなるい  
百そ弄ししすまうり

信家持孫政家た政家

乃ららな家を世のいりつふり  
をしまれあふり乃らうくやあすん  
まを弄しし  
素好法師

ま家ぬくなむいゆくをれあさみり  
野しりああぬいりりふ

寛平御時后宮寮令

紀友則

しるふに先乃りつらひいしとてみこころ  
野をみよこころを成いしとてしん  
のしんをてあはれを給るるし春を

源家共朝臣

はれとてに野は乃りつらひいしとて  
りえいり家平乃りあはれを  
たふすはれを成いしとてしん

年進臣卿

しるふに先乃りつらひいしとてみこころ  
野をみよこころを成いしとてしん  
のしんをてあはれを給るるし春を

後二臣家陸

まはれとてに野は乃りつらひいしとて  
りえいり家平乃りあはれを  
たふすはれを成いしとてしん

後三臣家陸

しるふに先乃りつらひいしとてみこころ  
野をみよこころを成いしとてしん  
のしんをてあはれを給るるし春を



ゆめりやうゆめり

大武三俊

かきうりわうしほさ成こしうてむ  
しそりしるまほるるうし  
百そ弄よきゆ

慈教和尚

いひくもむら  
春弄とや

若原伴嗣朝臣

こちわくは小る記ふりゆりうの  
はくこりしれ成るふりきりうん

慈不知

若原好忠

きちかきふり乃なるのつるま  
るしりしりしりはせしん

藤原隆祐朝臣

とちりしぬりせのるまれぬりうん  
きりしりしりしりはせしん

赤蓮法師

こりしりしりしりはせしん



藤原知賢

是の如くはうらえいさみの花のまじり  
かりぬえりこれ行ふ乃うの

悲し不念

源信親

かゆあけはるこさうりけそ入りも  
きしようをーやまいさのりか

其の傍段に美信は白のさうりよ孝敬を

東のゆき

いやはしよはさかしくさかきさ  
はむさくまかしくさかきさ

いさ乃ら

亡生忠見

たやうくさくさくさくさくさく  
見てもやうさ人井て乃やまふ

春弄

中務

るもさ宛乃い家のまうりかかひる  
井てーやうのさくさくさくさく

題不

宗徳院

さかきくさくさくさくさくさく



そのじりげとそらひのるくたな也

二百そ乃流方れ中よ

後名好流流製

を流と先になまきつてわらんしういりそ

百そ流一乃中し

元流流製

川乃せにあふ流やあこすしとそら流の

すすあしりあふあやすあ記の記

すこれよようあしあ

約集の流製

ゆいあ流とそらら乃とそら流乃野小

一の志すそれのをあつし

野乃野一乃流とそらし

乃をあのしとそらし

源流

いりなをそらしとそらし

いりなをそらしとそらし

かたしとそらし

土御門院御歌

てふかへせのいもふさむらみりうよ  
まのまけけりかきつゝいゝ

藤原佳捕朝臣

あやめりけのこもまふをそまらつて  
なれをれとやまあしあらし

なごりうしふちのいよかぬり  
をみまよふ

紀世之

いひ乃人ふふかへりあちよのま

あひ乃人ふふかへりあちよのま

あひ乃人ふふかへりあちよのま

宗徳院御歌

きこりうしれいぬよかほゆらるふ  
見ちるしりたこまをさか

花と

後無法師

あはしきよのこえそたちふあまの  
井口はまの

あはしきよのこえそたちふあまの

西宮なる入道の書

ひさしなるあはれに  
はなれぬ心  
あはれなる心

菅野右近将軍

あはれなる心  
あはれなる心

源氏物語

あはれなる心  
あはれなる心

右大将の御書

壬午忠孝

あはれなる心  
あはれなる心

忠孝

忠孝

あはれなる心  
あはれなる心

忠孝

忠孝

あはれなる心  
あはれなる心





慈路和鳥

かきつりまのりつはいふしつし  
とつしつれりらるるらるる

後集後拾遺百首之八十六

まの涙しつらひし花のさき

は心のいふありあけしつ

長壽一

梅申酒云道後

日守ありし家らるるれりれり  
くれえいふるるるるる

百首ありしつらり

おち胸云たむ

しんしのすみのいりて  
らるるらるるらるる

長壽一

慈路和鳥

らるるしつらり  
んかのうらりていり

千女百首之八

後集後拾遺百首之八

てよじしるふのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの

いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの

送二位家隆

いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの

松律即云松

いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの

送二位家隆

いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの

瀬川流百三奇の中

松律即云松

いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの  
いふのちかしのいふのちかしの

幸ふ花身合し

純芳え

ふれらふさきしむきくさふらして  
りれしむきしむきあふらんらるる

聖葉和詩集卷第四

夏奇

早夏のうらみ

院中製

あむらりしむきくさふらして  
るれしむきくさふらして  
るれしむきくさふらして

後集抄抄録

あむらりしむきくさふらして  
るれしむきくさふらして



新橋及び大田原百々之方ニ旅の午後

致す所なる也

山ノ下ニ行キテ  
見ルニ  
山ノ下ニ行キテ  
見ルニ

山ノ下ニ行キテ

山ノ下ニ行キテ  
見ルニ  
山ノ下ニ行キテ  
見ルニ

山ノ下ニ行キテ  
見ルニ

山ノ下ニ行キテ  
見ルニ  
山ノ下ニ行キテ  
見ルニ

山ノ下ニ行キテ

山ノ下ニ行キテ  
見ルニ  
山ノ下ニ行キテ  
見ルニ

山ノ下ニ行キテ

山ノ下ニ行キテ  
見ルニ  
山ノ下ニ行キテ  
見ルニ

















さみしき乃んまふれまをいたのつ  
わきとひをさるきまひのきし  
み月ぬらふと

修理を文顯重

さしきふあさこれぬまのりねら  
そこのりたるやしぬらん

大貳三位

しきれ乃ひまふれさるは伊勢のあま  
りふれまふりきしやちぬらん

藤原隆祐朝臣

ふこのりしれりなりやぬみ月ぬふ  
いぬはりのきりなりぬらん

賀茂政重

きこれ浦れあまゆきねはらりて  
かさくたうひくさしれぬらん

藤原隆祐朝臣

こみくすあやめさしれさしれに  
こみくすあやめさしれさしれに

建保四年月表十と奇人か

東大御之御通



むし乃人いひなりなり  
夏哥とと

鷹司院師

よそくくもふねるむしはとたりなる  
あまなふやじし

西新法師

よとすくくくく人かむし紀のく  
あつしとくくくく  
つち過ふくく事

藤原光俊別書

ゆみそち乃くくく記をくくく  
うたれくかかふくく

巻一に 前太政大臣

つゆくくくくくくくくく  
あゆむくくくくくく

前中納言

かきとくくくくくくくく  
あま守はくくくくくく

後二位忠清

いりしはぬしおのころをまじへし  
はなはたしむるやよふにありす  
いりしはぬしおのころを

松竹正水縁

しつろしむるはなをよまにりしや  
大をとりしはなをよまにりしや  
百々奇人しむるはなをよまにりしや

松竹正水縁

いりしはぬしおのころをまじへし  
はなはたしむるやよふにありす  
いりしはぬしおのころを

百々奇人の中

松竹正水縁

いりしはぬしおのころをまじへし  
はなはたしむるやよふにありす  
いりしはぬしおのころを

松竹正水縁

いりしはぬしおのころをまじへし  
はなはたしむるやよふにありす  
いりしはぬしおのころを

松竹正水縁

ていかに乃しあらのろくれちるまは  
しーしうしゆあせしりかきひ

茶内大たあみそふ小夏川るむ

祝戸成茂

うふあひの月城まゆとる古物  
あついにいしあまのししるむ

題不知

本院御儀

川る路よあつととせししうふあぬ  
こふあしちあつてし  
あつしちよし物

楽道は神

次ては浦の海去のたぐりのやりのや  
やうくしふ屋くあうりあつてし

あつしちよし物

茶中納言定茂

二乃こり乃こねこれせにうさしりれ  
よあうすしあしあしあつてし

本子内親王

いしあつてしあつてしあつてし



河蟹とてし事  
河蟹とてし事  
河蟹とてし事

後大信部 實見

あつたふとみきし乃こしけやあまれふ  
あつたふとみきし乃こしけやあまれふ  
あつたふとみきし乃こしけやあまれふ

津道法師

とりのすゝくを乃こしけやくるひし乃  
とりのすゝくを乃こしけやくるひし乃  
とりのすゝくを乃こしけやくるひし乃

蟹のよとてし事

明教法師

かよいてぬれぬりしれくすのあふ  
かよいてぬれぬりしれくすのあふ  
かよいてぬれぬりしれくすのあふ

小侍従

あつたふとみきし乃こしけやあまれふ  
あつたふとみきし乃こしけやあまれふ  
あつたふとみきし乃こしけやあまれふ

菅野大政大臣

あつたふとみきし乃こしけやあまれふ  
あつたふとみきし乃こしけやあまれふ  
あつたふとみきし乃こしけやあまれふ

似謝罪書

心三位季経

こころのわがねしきいかにわがしるは

まじりたれぬいそまじり

源百と云一公小

後京極坊政前左殿大臣

るくせこ乃ハまをく霧小秋しけて

こころすししにゆみれ乃しそ

後志志しに 後志法師

海まひこもこころそあそぬゆつそ

さすやをく乃せもれりりしそ

樹陰似秋とりよしそ

前中納言通方

る川やまのこれしそそあすしそに

たりのあそんてしそやあそん

題しそに 兼蓮法師

あらしまはつそはあそるりあそれそ

まそあよそぬ作務の候そ記

月前遠涼とりしそ

源後頼朝片



一ハいぢまあ〜あわふにりるん乃  
けさゆ家まそふはくもあし  
百さる人くふよきやふれ〜とさ

流津敷

るい乃よもふけうすし〜ふい〜と  
月おいのくふあさやとるん  
松下細源を

茶中細源を

こぬあが取たのひろりぬす〜と  
いりをととらふれまのりぬの志〜と

後京極橋政家よ詩平今傳言つたの志

涼自秋〜と〜と紙

大苑に有部

こぬあが乃いり〜と〜とすこなり  
むすよ〜と〜と山れあ

巻〜と紙 舞蓮法師

尾が〜とや〜と〜と河の〜と〜と  
わた〜と〜とわ〜と〜とす  
い河を乃あ〜と〜と

二条大皇太后宮大式

あるの目ともしよふいふのすしし  
いといふられてあふやまぬらん  
又社百をなれ申す

皇太后宮女史信成

なり乃い誠いよひてもりの家なく山に  
あふとすふらるまりのせえれ  
百をなれ申す

本子の親王

月のいろとあきらら...とや...  
さるなりあふれねとらん

後醍醐天皇

す急い乃い程とあふらわねと  
建仁元年秋信のとより...  
なりのわくや...  
更保回幸内裏十を命す

前大納言信通

あつ川あしけてわづらあふれ

題不知

藤原為繼判官

たはらふ此る川もこもわかれゆきすし  
やそそやかせ乃うりりてくても糸

安藤

あこれの家たさうすししきりこるこ乃  
あまれうりしにあまやうらん

六月絵の白紙

既戸成哉

そちるり神よの松のまきかして  
あま乃るりさいりけりさき

百々清乃中よ

後鳥羽院清一製

見そる川ゆきりさきやあまゆん  
はげたさきをなあまのひとあま

土清心院清一製

みそ記とあまにさうしたほあま乃  
あくてあまにさるる川風



藤一不焼あまのしもわのさう人よ  
こしてり吹あまのさう人よ

百首集一の中に

後京師後政奉太政大臣

そそよち家むらり乃うりたあさひ  
なまこもしつたあまのさう人よ

慈願和尙

るこいよりあく神よははちうさ  
まらうしうひらあまのさう人よ

秋をのこころ

院法家

そくそそ小あ記すははつて  
さきこころしつはれあさう

百首集一歌

院法家

あさりあまのさう人よ  
のまらりのみれあまのさう人よ

子み百首集一

宮内

おらうさかすのこころ



茶園白は久長

を引く乃あさせふじましたあまの川  
まらゆりよはまらひやしわらん

詠成件

なるしん乃あさ敷すくる記るはあま  
そぬちさりふろまゆけあま

白き清一哥の中

古清一院清一歌

何れのうちあつたちさりとあまの秋を  
いよひのけいんりあひのりま

セシノのよき作一に

同院橋政久長

あま乃しんあまのあまのあまの  
あまよあますこまのひらせあま

あまのあまをまらひあま

茶陽の院抄前

しんあまのあまのあまのあまの  
あまのあまのあまのあまのあまの

千五百番一合

茶大徳之巻良

きしけの葉にあさひくはわたりこの  
ひしよれあしめいししあかん

巻不知

母かほ神

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

船川右大臣

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこも  
あまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

あまのこも

あまのこも

あまの川いさるあまの川いさるあまの川いさる  
あまの川いさるあまの川いさるあまの川いさる

あまの川いさる

あまの川いさる

あまの川いさるあまの川いさるあまの川いさる  
あまの川いさるあまの川いさるあまの川いさる

あまの川いさる

あまの川いさる

あまの川いさるあまの川いさるあまの川いさる  
あまの川いさるあまの川いさるあまの川いさる

あまの川いさる







志は先ゆい——うみこころをきかたむけ  
こころをきかたむけ——ぬせ——るこころ  
母命の花を

中務少輔平親王

ゆみさうりにふのうたにんゆりたむけ  
ゆきさうりさきさきふりゆやしきさ  
題志——  
秋乃田れさうりにむかひさうおきさ  
いかりさうりやきさぬさうりおきさ  
藤原基總

木みる人——よれむしきさうり  
ちるやわいたれわりさきさうり  
清原深雪の文  
もねさうりさうりさうりさうり  
しきさうりさうりさうり  
七西院具來  
そらとゆきさうりさうりさうり  
さうりさうりさうりさうり  
殿富門院大輔  
ゆみ人さうりさうりさうり



中務の具を記す

ちくさるあふらるる日しは秋のけしき  
んかへんかへんかへんかへんかへん

野花

紀書之

きくつ存やしあのこころにそめし  
あふのくさへんよはすし

秋のけしき

藤原資隆の書

あたりしころのうらみをかきし

あふらるる日しは秋のけしき

野花

紀書之

あふらるる日しは秋のけしき  
あふらるる日しは秋のけしき

柿本人丸

あふらるる日しは秋のけしき

あふらるる日しは秋のけしき

秋

紀書之

あふらるる日しは秋のけしき  
あふらるる日しは秋のけしき

千六百番奇合下

後京極攝政前右近衛

二二二あきつれ乃あまら月

こやこわよまねるりりれこ急

百そあ人くいりけり

後鳥羽院御製

まのり乃とるれ乃あまら留に

そのまじりすりや人乃留の雲

可そあれ中下

和泉中戸

かりぬ乃あまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら

五十そああてあつる

兼定法師

あまらあまらあまらあまら

こぬあまらあまらあまら

萩家とてし書と

源家信

あまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら

秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首

題不知

源真親附片

秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首

源真親附片

秋十首

秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首  
秋十首

秋十首

源真親附片

書山房

源真親附片

やあこゝはよきしりしすまを  
ゆふのやまにのぼりて

秋分とく

藤原光俊朝臣

あはれもみ乃とまふまふと  
いふくしりなるまふくしり  
とくしす 和泉守  
まふくしりのあまふくしり  
まふくしりのあまふくしり  
まふくしりのあまふくしり

小弁

まふくしりのあまふくしり  
まふくしりのあまふくしり

西河守

まふくしりのあまふくしり  
まふくしりのあまふくしり

秋分とく

福戸忠成

まふくしりのあまふくしり  
まふくしりのあまふくしり



日条大を大坂文平合小

源後頼朝片

夫乃ころハミカのやまに昔川一りの

急と下よあせし〜うね日るる記

是〜〜に よき人さ〜〜者

ゆきまをさ〜〜るや中にさ〜〜の

こよいあ〜〜いぬあ〜〜〜と

十号の合伴一小叔麻と

土御門院小宰相

つむしる兒川ま城や昔のむあふせの

男よさしき〜〜し〜〜とある

海邊の麻と〜〜と

後鳥羽院御教

おとち〜〜し〜〜のま〜〜にゆみと

し〜〜の福あ〜〜たふやませ

後二位源隆

〜〜城ま〜〜〜〜〜〜のふ〜〜と

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜と

後鳥羽麻と

源後頼朝片

さきふあひふさきのまらしくしはたは  
まらしくしはたはまらしくしはたは

むあお 女家心統甲斐

まをうあまを縁れちしし  
を人のまにけいもやこせれ家  
日条大皇を指まのまふし麻と

康徳貞と母

いろよいとあまもしと志う乃ちくれのハ  
しれぬたらしやいもはこめりし  
建保四年内裏より六そまふ合付け

小朝野麻

位二位花宗

あまゆをまよいまもてゆまら  
のすまらあまももろく

むあお 権大納言通成

あまふくろるゆゆいささし  
のくまもろくしれはまら  
百そ弄人く小まれし

後鳥羽院御装

いゆふさす乃のちくこのあけすのふ

木よりぬきてうきうきなりし此の意

延保三年の裏書分

後原佐實朝臣

わたり乃歸此木なる小ま志あり此ねり

いろよや川中をこみわたりるらん

可き事そて入はりし小

藤原隆信朝臣

てろる事乃のありし乃いふて

わたり乃ありれをいふるらん

懸又知 刑部右補

ぬきたりし木乃のありしや西きらん  
いふる事そて入はりし小

藤原朝臣

木よりぬきてうきうきなりし此の意

延保三年の裏書分

後原佐實朝臣

藤原朝臣

わたり乃歸此木なる小ま志あり此ねり

いろよや川中をこみわたりるらん

可き事そて入はりし小

藤原朝臣

右兵衛尉院卿

うらりなまをきらるるあつりり小秋の  
うらりなまをきらるるあつりり小秋の

順徳院御製

十三年の合符  
あつりりなまをきらるるあつりり小秋の

嘉陽院御製

こまはるるあつりりなまをきらるるあつりり小秋の  
あつりりなまをきらるるあつりり小秋の

建曆二年の哀符令よ水口秋夕

後久我を政大臣

あつりりなまをきらるるあつりり小秋の  
あつりりなまをきらるるあつりり小秋の

小暮山麻  
院御製

くれなゐとふけやゆさつりり小秋の  
あつりりなまをきらるるあつりり小秋の

右兵衛尉院卿

あつりりなまをきらるるあつりり小秋の

わさのそくはやほまうとつふらん

題志くし

前中納言雅兼

あまふみしりし中納言のねの縁に

急ぐちうへふりしあくなを

深衣麻とりふんと

源重隆

やまはしはころ乃すてねおまに

よふきしりし急ぐとさひし

十とよの命

小衣麻

後二位家隆

あまはあ記れをてしちさうに

くれふしれねをやまうし

前将政大卜家百とち小回麻を

前中將師家

かりいりや川のしりたのいりり

しりしりし乃山やさむしり

題不知

宣仁法師

まねやぬかやまのちりりり

わらたのしりりりりりり

建長二年仙洞詩并合節  
秋興を

公卿門院小宰相

しきゆいさくのやれゆふに  
もらく走てやしるなるん  
歌不効 亡生かん

あまのまのころころあはれに  
しうせきりつるいよもたつん  
茶のたけあそふ小秋瀧霧

正二位

あまのまのまのりうちれは  
和川とくそむとらまこゆ家

位三位所能

足あつてれまのりこめ  
あまはしるこめいさの瀧  
百そまれし

後京極持政左大臣

山うねやなまのりしるの伸  
まふ乃葉わさくさあしる  
家あそふあゆりし河霧

道物法親王

らんしむるおのりきとて  
せりいぬるいひつら乃らるみ

参議雅經

はまのりぬるのそやまのそ  
まらふあしつら乃川る

紫雲院法親王

右原清輔朝臣

はら乃らるあしつら  
らるれつらつらむらむら

百々清

右清一院法親王

あしつら乃らるあしつら  
やのつらやまのつら

子文一書

後鳥羽院法親王

かちん乃らるをらつら  
こつらのつらあしつら

二條院法親王

いとほなるつらのつら

わらわをてらうりたけり

十首の合約 一 秋夕を詠

順徳院御製

ささふれてひまのいづともゆしん

くさ乃いゆふくあまれゆよせ

兼大納言信平

中々すつ〜〜〜りら〜〜〜れつ

うせ乃ま〜〜〜なりあま乃ゆよに

秋夕のよみ

西のつゝ家

しりれいふ夜乃戸れつゆのひら

くさつやす先ぬあまのひ〜は先

百首御製の中に

順徳院御製

み〜わあふまうみれあまのる〜

な〜ゆ〜まわまふあ〜あ〜つゆ

秋夕のよみ

兼白方大納言

い〜い〜や〜たあ〜く〜めつゆ〜

縁〜〜〜秋ハき〜ま〜ら〜あ〜





